

巻頭言

主任牧師 中島 聡

「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であつたから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」マタイ福音書 五・二二

《タラントンの譬え》 主人が、旅行に出掛けるので、その間、僕たちにそれぞれ五タラントン、二タラントン、一タラントンを預けていった。旅から戻って確認すると、五タラントンの僕はもう五タラントン儲けて十タラントんに増やしており、二タラントンの僕も四タラントんに増やしていた。ところが、一タラントンの僕は、何もせずに土の中に隠しておいたので、一タラントンのままだったというお話

《皆、神からタラントンを与えられて生きている》
この譬えは、私たちがどう生きるべきかについて教えています(ルカ福音書では、「ムナの譬え」として同様の教えがある)。

私たちには、皆、一人一人に神から与えられたタラントン(賜物、才能)があります。それは、「五・二・一」に表されるように、人によって違っていても誰だって「五」が良いと思うでしょうが、現実的にも人の才能は一人一人異なっています。「一」の人は、「なぜあの人は五で、私は一なの」と、羨みや怒りを覚えるかもしれません。あるいはさびしさや空しさを感ずるかもしれません。しかし、一タラントンとは、

現在のお金に換算すると約六千万円であつて、決して小さいものではないことが分かります。これは、金額の問題ではなくて、神が一人一人にお与えになっているタラントンは、それぞれにとっても素晴らしいものであることを示しています。

では、なぜ、一タラントンを隠しておいたかという、主人を厳しい人と決めつけ、「もし減らしでもしたらどうなることかと恐ろしくて隠しておいた」というのです。誰しも自分の歩むべき道に恐れを覚え、一歩も動けなくなり、自分を埋もれさせてしまう時があります。しかし、この人の場合、恐れを為して何もしないことを、他者・主人のせいにしてしまつて、ことに問題があります。これではこの人は一生何もできないままです。たとえ自分に自信が持てず、不安を覚えても、「いつの日にか」と信じて祈り、目標に向かって努力を重ねていく姿勢が大切と示されます。

《タラントンを預かつている》 さらに、このタラントンは正確には、私たちに「預けられている」ものであつて、決して自分のものではないことが分かります。すなわち、私たちの才能、人生とは神にお返しするものであり、自分の好き勝手に用いて、利己的に独り占めして悦に浸るような人生は駄目だと教えられるのです。まずは、各々に預けられているタラントンの素晴らしさに気づくことであり、「神は必ず私を用いられる」と信じて祈る信仰が大切です。そこから「神と人」とに喜ばれる「生き方が始まつていくのです。今年の五月一日、国連事務次長(軍縮担当上級代表)に日本人女性として初めて中満泉氏が就任しました。彼女は難民高等弁務官をはじめ、ずっと平和推進活動に携わつてこられました。

なぜ、このようにタラントンを活かすことができているのでしょうか。そのきっかけは、フェリス女学院

高校の時代に、学校でマザー・テレサの映画を鑑賞した時、「私も将来、人を助ける仕事がいい」と思つたことだそうです。私たちのタラントンの花開くのかは分かりませんが、若い人は経験がまだ少なく、そこが不安かもしれません。また人生経験を重ねてこられた方は、謙虚に自分の限界を感じておられるかも知れません。

しかし、「神がわたしたちを救い、聖なる招きによつて呼び出してくださいましたのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによる」(第二テモテ一・九)であつて、たとえ、今の自分の行い、モチベーションがいかなるものであつても、神は御自身の計画と恵みによつて、私たちを救い、聖なる招きによつて呼び出してくださいました。

《与えられた使命に仕える》 自分に与えられ、預けられたタラントンは何であり、どれだけのものか気になるのでしょうか。しかしながら、前述のとおり、それは一人一人異なれど、必ず「素晴らしい」ものなのです。そして、神の眼差しからすれば、五も二も一も、みんな「小事」(五の僕にも、二の僕にも、「お前は少しのことに忠実であつたから」とあります。これは神の恵みは無量大であることを示し、私たちが自分に与えられ、預けられているタラントんに真っ直ぐに向き合い、気負わずにできる限りのことを為していくならば、やがて神と共に喜びつつ多くのものを管理する、永遠の御国において神と共にすごすことになることを示しています。

私たちが、一人一人に与えられている使命、奉仕が何であるのか。主に祈り求め、示されたならば勇気をもつて行動して参りましょう。そして、互いに祈り合い、支え合つて、主と教会に仕えて参りましょう。ハレルヤ!アーメン!